

リムハイのたみの だっしゅつ

だい16しょう



ア王たちがにげると、レーマン人はのこったニーファイ人をつかまえて、よそ地へつれていきました。そこで土地をあたえて、おもいぜいきんをおさめさせました。(モーサヤ19：15)



ニーファイ人はリムハイを新しく王にしました。リムハイはノア王のおむすこでしたが、父親のようにあくを行わず、正しい人でした。(モーサヤ19：17、26)



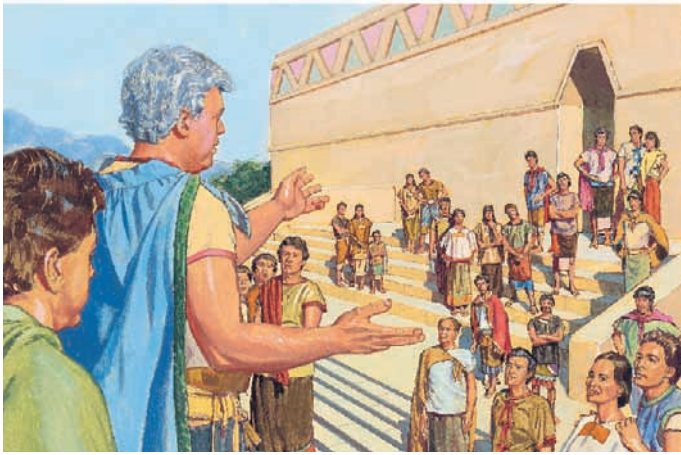
リムハイ王はレーマン人となかなかおりしようとしませんでした。しかし、レーマン人はニーファイ人を見はり、ひどくいじめました。(モーサヤ19：27-28；21：3)



ある白リムハイ王はじょうへきの外によそものを見かけたので、とらえてろうやへいれました。ところが、かれらはゼラヘムラから来たニーファイ人でした。(モーサヤ21：23-24)



しきかんはアンモンという人でした。リムハイ王はアンモンに会うとよろこんで、たみをレーマン人からすくい出してくれるように言いました。(モーサヤ7：13-15)



リムハイ王はたみをあつめて言いました。「われらはあくじをはたらいたため、とらわれのみとなっている。」(モーサヤ7：17, 20)



「しかし、あなたたちがくいあらため、神をしんじて、いましめをまもるならば、神はおまえたちをすくい出してください。」(モーサヤ7：19, 33)



ニーファイ人は、町を見はっているレマン人たちが、夜いつもさげによっていることを知りました。(モーサヤ22：6)



その夜には、リムハイ王はいつもより多くのぶどうしゅを見はりのへいにおくりました。(モーサヤ22：10)



リムハイ王とそのたみは、よっぱらった見はりのへいたちのそばをひそかに通りぬけ、にげて行きました。(モーサヤ22：11)



リムハイ王とそのたみは、あれ野を通過ってセラヘムラの地まで、アンモンにみちびかれました。そこでもよこんでむかえられました。(モーサヤ22：13-14)